

# 第1回子ども・子育て会議に係る委員のご意見要旨及び区の考え方について

別紙

No.	項目	委員意見(要旨)	区の考え方
1	今年度における計画改定の必要性等について (資料第4号)	異論ない。教育、保育のニーズ量について、出生数や0歳人口は変動幅が大きいいため、過去5か年の伸び率を元にした算定で問題ないと思う。	過去3か年の出生率が一定しない状況において、3か年の平均を用いる方法では実態に見合う人口推計が難しいことから、昨年度に引き続き、過去5か年の平均値により算出した出生率等を基に人口推計を行いました。今回、推計の再考に関するご意見が寄せられなかったことから、本推計に基づき、子育て支援サービスのニーズ量を算出し、第2回子ども・子育て会議でお示しする予定です。
2	今年度における計画改定の必要性について (資料第4号)	昨年度より出生率は全国的に低下、特に新型コロナウイルス感染症の影響による出産の控えもあるようである。区の見通しとしては、少しは減らしているようだが、それでも見通しは緩やかに思う。出生率は全国では1.34、東京都は1.13となっている。この数字をどう見るのか、心配である。	ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化が出産・子育てに係る指標にも現れていると認識しています。その一方で、本区は「子育て世代に選ばれるまち」として年少人口は増加傾向にあり、全国的な傾向とは異なる状況です。このため、本区の実情を踏まえた子育て支援事業を展開する必要があります。
3	今年度における計画改定の必要性等について (資料第4号)	幼児期の教育・保育のニーズ量が減少した理由の一つは、新型コロナウイルス感染症の流行による利用控えが大きいと推測した。現実の利用状況に合わせて再算定することは有意義だと考える。感染傾向の収束に伴い、再びニーズ量は増えるように思う。その時は、どう対応するのか興味がある(例えば、子育て短期支援事業、ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり事業、病児・病後児保育の利用者が、ニーズ量を上回って増えた場合に年度途中でも対応できるのか、または、令和5年度までは利用を控えるように区民に伝えるのか。)	令和2年度から6年度までの5年間を計画期間とする「子ども・子育て支援事業計画」については、計画3年目の中間年度に当たる4年度に見直すことを予定しています。新型コロナウイルス感染症の影響に注視し、ニーズに応じた各種子育て支援事業の確保の方策や実施時期等を検討してまいります。
4	待機児童対策について (参考資料2)	待機児童ゼロを目指しているようだが、待機と欠員の数に整合性が見られないことに疑問を感じた。近い将来は定員割れ問題が深刻になると予測される。増え過ぎた施設数をどのように調整されるのか、その計画を知りたい(施設数の減か、定員の見直しか)。	待機人数と欠員人数の乖離については、入園選考終了後に辞退があった場合等により、待機人数欄と欠員人数欄の両方に人数が掲載されることによるものです。また、最近の入園状況においては、新型コロナウイルス等の影響により、保育園の入園を見送っている家庭が一定数いることも考えられるところです。今後の定員や施設数のあり方については、そうした社会情勢の変化や保育ニーズを見極めながら、検討していく必要があるものと認識しています。

No.	項目	委員意見(要旨)	区の考え方
5	育成室の定員について (参考資料3)	育成室については一定の整備が進んでいるが、窪町育成室等の一部育成室では利用者や児童数が増加していることから、拡充の必要を検討いただきたい。育成室については、現状では居住地区での申込となっているため、今後ニーズの多い地域とその近隣地区での入室可能地域の柔軟性をもたせる等の検討も必要である。	児童数の増加が見込まれる地域における育成室整備の検討を引き続き進めてまいります。 なお、育成室は住所要件による申し込みとなっていますが、定員を超える場合は近隣の空いている育成室をご紹介します。
6	ベビーシッター利用料助成制度について (参考資料4)	ベビーシッター利用料助成の制度設定を喜んでいる声を耳にしたことがある。そして、興味津々な方がいることも知っている。新型コロナウイルス感染症の大流行で困っている世帯には救いの手のように感じ、制度設定に感謝申し上げる。また、対象となる方に「自己実現」の文言があったことに驚いた。利用しやすい一言であり、「せっかくだから利用しようかな」と一歩を踏み出せる方が複数名いるのではないかと思う。	新たな子育て支援策として、令和3年度から本制度を開始しました。多くの子育て家庭にご利用いただけるよう、区報やポスター、区HP、子育て応援メールマガジン等の紙媒体や電子媒体を活用しながら、制度のご案内をしてまいります。
7	情報誌「子育てガイド」の作成について (その他)	男性の育休取得に関する誌面掲載の検討を、ぜひお願いしたい。育休申請の手続、育休中の厚生年金保険料や健康保険料等の社会保険料の免除も記載すると、会社にも育休申請しやすいと思う。あわせて、育休を取得しても、スマートフォンゲームに夢中なお父さんもいる、と聞く。子育ては、お母さんのやって欲しいことをやってあげましょう、お母さんのニーズを上手にヒアリングするとより良い子育てができますよ、といった文言もあると気づきにつながると考える。私自身もパパママ学級でいただいた冊子を大変参考にした。	「子育てガイド」は、妊娠中から子育てまでにに関する最新情報を収集し、民生委員・児童委員、主任児童委員と協働で年1回発行しています。2021版では、「育休パパの過ごし方」(108ページ)を新たに作成し、育児休業を取得した父親の1日の様子や先輩パパママたちの声等を掲載しました。 今後も、子育てを取り巻く環境の変化に合わせ、多くの子育て家庭に役立つ冊子づくりに取り組んでまいります。
8	子育て応援メールマガジンの配信について (その他)	配信年齢を拡大していただき、重宝している。月齢・年齢ごとの遊び方、どんな絵本が良いのか(絵がたくさんがいいのか、字があってもいいのか等)、病気、アレルギー等、配信されると、なるほどと思って読む。児童館や子育てひろばの情報もあり、届くとなるほどと感じることが多い。保育園、幼稚園、小学校、育成室の情報もあったらありがたい。	本事業をご利用いただきありがとうございます。子育て応援メールマガジンは、妊婦の方や乳幼児のご家族を対象に、出産や子育て、区の事業・イベント等に関する情報をメールにより配信しています。 昨年度、配信内容を6歳未満まで拡大し、現在多くの方々に登録いただいておりますので、区の事業・イベント等に関する配信内容については関係部署と連携しながら検討を行い、出産・子育て家庭を支えるメールの配信に引き続き取り組んでまいります。
9	保育の質の向上について (その他)	保育園の数はニーズ量を確保しているが、今後は保育園の量から質への転換期となる。保育園の入所動向を拝見すると、すでに入所率が50%程度の園もあり、需要と供給がアンバランスになっている。保育園の利便性等も考慮しつつ、例年欠員が多く出ている園からの聞き取りや巡回等の実施等、保育の質の向上に向けた取組を引き続きお願いしたい。	区立保育園園長等経験者による巡回指導については、入所率等に関わらず実施しており、引き続き保育の質の向上に努めてまいります。

No.	項目	委員意見(要旨)	区の考え方
10	保育士の質の向上について (その他)	地域福祉推進協議会の意見に対する区の考え方が示されていたが、研修実施等が要件となるキャリアアップ研修に参加することが優先のあまり、その対象以外の職員が何の研修も受講していない傾向(実態)があるようだ。今後どのように指導するのか。	指導検査において、研修の機会の確保、研修計画を適切に立てているか、研修の成果の活用等について確認しています。今後も指導検査の中で確認し、指導を行ってまいります。 また、現在、区立保育園研修に私立認可保育所等職員の参加を呼びかけるとともに、私立認可保育所の園長等を対象とした研修も実施し、研修受講の機会を設けています。
11	保育園の情報発信について (その他)	コロナ禍では施設見学などができず、【1分で回れる文京保育園】等の少ない情報から、保育園選びをしなければならない。結果、駅近等の一部の園に人気が集まる傾向があり、ますます保育園での入室率に偏りが出る可能性がある。魅力的な情報発信が必要である。	各園の情報は、区HPにおいて「1分でまわれるおうちで園見学」をはじめ、「施設概要一覧」を掲載しています。「施設概要一覧」では、各園の所在地を駅毎に一覧化しており、園名や地図上の園番号をクリックするだけで各園のページに飛ぶことができるため、検索しやすいと好評をいただいています。 また、各園のページには各園HPへのリンクを貼っており、それぞれの園が提供する情報にアクセスできる環境も整えています。
12	保育園の情報発信について (その他)	私立保育園における預かり保育料等は個別に各園に問い合わせる必要がある。預ける側が最低限必要とする情報は、各園に問い合わせることなく、一覧できる資料があるとありがたいとの意見があった。	私立園における預かり保育料等(延長保育料と読み替え料)については、各園によって金額の設定基準や考え方が異なり、単純に一覧化することができない可能性があります。 延長保育料の一覧の公開については、今後各園と相談の上、慎重に検討してまいります。
13	ブックスタート事業について (その他)	区から本をいただけてとても嬉しかった。今後もぜひ継続していただきたい。	本事業をご活用いただきありがとうございます。ブックスタート事業では、4か月健診時に図書館職員が絵本を読み聞かせ、保護者に絵本を手渡しています。乳児期から絵本に親しんでもらえるよう、今後も事業を継続してまいります。
14	小学生のタブレット端末等の取扱いについて (その他)	区立小学校の小学生がタブレットを毎日持ち帰って充電する。教科書や体操着で今でも十分子供には登下校の荷物が重い、さらにタブレットまでとなるとその重さは大変厳しいなどの声を複数耳にした。教科書は置き勉(机に置いたままで登下校時は持ち運ばない)、タブレットも充電が例えば50%を下回ったら持って帰って充電などと、区でざっくりとした統一見解を示すことは可能か。子供達の負担を減らしたいと考えている。	タブレット端末は、教科書やその他教材等と同様に、授業や家庭学習を行う上で重要なものです。また、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う学級閉鎖等の際に、学びを止めない重要なツールであると考えています。一方で、児童の日々の持ち物については、過重になることで、身体の健やかな発達に影響が生じかねないこと等の懸念があることから、改めて十分配慮するよう学校に周知しています。